

1985年の発生をみると、⑤の間に見た幼虫の齢数はばらついており、⑥の目撃時においてもまだ若齢幼虫がみられたことから、複数の母蝶が長期間に亘って産卵したと考えられる。すなわち8月に採集した2頭はいずれも当地において羽化した一群に属し、2化目の夏型であり、同年春季からすでに当地に生息したと考えられる。

当地では10月6日まで若齢幼虫を確認したが、10月10日には全く姿を消した。原因は不明である。

ところで1980年から1985年の記録は全て高座川沿いであり、少なくともその間、経年的な発生が繰り返されていたと考えられるが、その後確認できていない。一方1987年の記録はやや離れている。分散しつつ定着を続けているのであろうか。

当地方では1979年頃からナガサキアゲハの定着をみたが、ナガサキアゲハは昼間、さかんに飛翔し訪花するのでその確認は容易であった。一方本種は日中はほとんど飛翔せず、薄暗い林内などに静止しているのでその発見は容易でなく、生息密度が低いままで推移する場合は各年での発生確認の困難が予想されるが今後の記録に興味をもたれる。

末筆ではあるが、本報告の作成に当たり、貴重な記録を提供された古市景一氏に深甚の謝意を表します。

(参考文献)

- 1) 西 隆広(1984). 芦屋市の蝶、てんとうむし: 28-38.
- 2) 山本広一・吉阪道雄(1960). 兵庫県産蝶類目録(3)、兵庫生物、4(1):37-44,46.
- 3) 古市景一(1983). 芦屋市の蝶相について、研究集録、芦屋市立教育研究所: 23-30.

ヒオドシチョウの秋季記録

西 隆 広

ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas* DENIS & SCHIFFERMÜLLER は阪神間では6月上旬に羽化し、その後約1箇月は低山地帯でよく姿を見るが、7月上旬には姿を消しそのまま翌年の越冬個体まで姿を見せないのが通例である。

文献によれば、本種の秋季観察例もある¹⁾が多いものではない。

私は10月に次の記録を得たので報告する。

1 ♀, 27-X.1984 芦屋市奥山(蛇谷)

採集個体はやや飛び古してはいたが、破損は殆どなく、路上で吸水していたもので他に一頭、飛翔しているのを目撃した。

採集、目撃地点の標高は470mであった。

(参考文献)

1) 蝶類年鑑1987(1987)、蝶研出版：339-340.

モンシロチョウの遅い記録

西 隆 広

モンシロチョウ *Pieris rapae* LINNAEUS の成虫は、阪神間では概ね11月下旬に姿を消すが、12月下旬に記録したので報告する。

1 ♂, 26. X II.1987 芦屋市精道町(芦屋川)

当日は季節はずれの高温であったが同個体以外はみかけなかった。

なお同個体は夏季型の特徴を示すもので、新鮮であったことから、休眠蛹の蛹化時期に非休眠蛹として蛹化したか、あるいは非休眠蛹の蛹化期に蛹化して羽化が遅れたのかのいずれかであろう。